

駒林小学校便り

令和5年度
6月号

あいさつでつながる あいさつで築く

副校長 村上 尚子

今週から6月に入り、アジサイの花が雨に濡れて色づき始める季節となりました。先月の8日には新型コロナウイルス感染症の5類への移行を受けて、学校における生活様式も段階的に変化してきています。コロナ禍前に完全に戻る、ということは難しいと思いますが、その都度状況を鑑みながら、子どもたちがより安心安全に過ごせる学校生活を目指していきたくと思います。

駒林小学校の3本柱は、「あいさつ」「歌」「たてわり活動」です。この3つを柱に教育活動を進めていきます。中でも「あいさつ」は朝、登校した時から午後、下校するまで、校内でも様々な言葉で何度も行き交う、とても大切なコミュニケーションツールの1つです。「おはようございます。」「こんにちは。」「ありがとう。」「ごめんなさい。」「失礼します。」「いただきます。」「ごちそうさま。」「さようなら。」など。そして、そのあいさつの言葉を交わす先、伝える先は自分ではない「相手」ということになります。「あいさつ」に関していつも思い出す話があります。元NHKアナウンサーである鈴木健二さんがおっしゃっていた言葉です。

【挨拶（あいさつ）とは何か。それは『心を開いて相手に迫る』ということである。】

挨拶の「挨」の字には心を開く、「拶」の字には迫る（近づく）（押して進む）という意味があります。4月より朝、登校時に南門で子どもたちを出迎えています。日を追うごとに、子どもたちの声の大きさやトーンにも変化が見られ、挨拶の言葉以外にも名前や一言を添えてくれる子どもたちも増えてきました。また、素敵な笑顔とともに挨拶してくれる子も、またこちらからかけた一言に対しても元気に返してくれる子も大勢います。いわゆるこれが「心を開いて」「（相手に）迫る（近づく）」ことなのだと、身をもって実感しました。初夏の青空のように明るく爽やかで素直な駒林小の子どもたちです。毎日の「あいさつ」を通してこれからも相手を思う心、豊かな心を育てていきたくと思います。

